



HITOTSUBASHI
UNIVERSITY

一橋大学
商学部

〒186-8601 東京都国立市中2-1
一橋大学大学院経営管理研究科・商学部
<http://www.cm.hit-u.ac.jp/>
E-mail: info@cm.hit-u.ac.jp





使命

一橋大学商学部は、100年を超す長い歴史をもつビジネス・スクールとして、日本のみならず世界で活躍する経営者や起業家を多数輩出してきました。商学部は、高質な教育プログラムを提供することを目指して、ミッション・ステートメントを定めています。

We foster captains of industry who create value for business and serve communities in Asia.



このミッション・ステートメントは、Leadership、Innovation、Integrityという3つの要素から構成されており、商学部の授業やゼミは、この3要素を実現するために提供されています。

このミッション・ステートメントは、商学部の教育プログラムの伝統に基づいています。一橋大学の設立と発展に多大な貢献をした渋沢栄一は、『論語と算盤』において営利活動と倫理・道徳の両立を説いています。営利活動の原動力がInnovationで、倫理・道徳がIntegrityです。

すなわち、商学部の使命は「論語 (Integrity) と算盤 (Innovation) を両立できる産業界のリーダー (Leadership) を育成する」と言い換えることができますでしょう。

歴史

一橋大学の歴史は、日本における近代化の歴史と重なります。1868年の明治維新を契機として、新たな企業や産業が次々と日本に生まれました。そこで必要とされるビジネス・リーダーを育成するため、1875年に森有礼が東京・銀座に私塾として商法講習所を開設しました。渋沢栄一もまた、商法講習所を支えた一人です。渋沢は、銀行制度の整備、東京証券取引所の創設、その他多くの企業の開設にかかわったことから、日本資本主義の父と呼ばれています。この商法講習所が一橋大学の起源であり、世界で最も早い時期に創設されたビジネス・スクールとして位置づけられます。

商法講習所は、1920年に日本初の国立単科大学として東京商科大学と改称され、1949年に現在の一橋大学という名になりました。「一橋」は、かつて校舎があった東京都心の神田・一橋という地名に由来しています。一橋大学は、時代の移り変わりとともにその教育・研究領域を広げ、現在は商学、経済学、法学、社会学という4学部を擁する「社会科学の総合大学」となっています。このうち商学部は、商法講習所以来の伝統をもっとも長く、強く受け継ぐ学部として、優れた人材を産業界および学界に数多く輩出し、発展し続けてきました。

長い歴史の中で、一橋大学は、古くから“Captains of Industry”を標語として掲げてきました。これは、イギリスの思想家にして歴史家であったThomas Carlyleが1843年に著した『Past and Present』に登場する言葉に由来しています。この標語は、21世紀に学ぶ今の学生にも受け継がれています。

PROGRAM

講義

専門科目教育および英語能力の養成

商学部の教育プログラムは、①基礎から応用までの段階的な専門科目教育、②英語でのコミュニケーション能力養成教育、③少人数のゼミナール教育の3つを大きな柱としています。

・基礎から応用までの段階的な専門科目教育

商学部は、経営学・マーケティング・会計学・金融という4つの領域を中心としています。それぞれの領域における科目は、「導入科目」「基礎科目」「発展科目」という3種類から構成されています。各領域において、基本的な知識と考える力をまず身につけ、次いで応用的な知識・能力を段階的に修得できるよう工夫された科目配置となっています。



・英語でのコミュニケーション能力養成教育

商学部では、全学の1年生用英語コミュニケーション・スキル科目に引き続き、2年生以上を対象としたEDGE (English Discourse for Global Elites) を開講し、より高いレベルの学習の機会を設けています。EDGEでは、英語教育に関する専門資格をもつネイティブ教員によって実践的な講義が行われています。この講義を通じて、オーラル・コミュニケーション・スキルを含めた4技能 (listening, speaking, writing, reading) のさらなる向上を図っています。

ゼミナール

少人数教育を通じた深い学び

ゼミナールは、一橋大学で100年以上も続いている伝統的な教育スタイルです。指導教員が10名前後の学生と小さな教室で向き合って専門書を読み、議論を重ねています。こうして濃密な学問の時間を共に過ごすことで、学生は普通の講義以上に深い学びを実現しています。



商学部は、このゼミナール教育にかなりの力を注いでいます。学年進行に対応して、「導入ゼミ(1年次)」「前期ゼミ(2年次)」「後期ゼミ(3・4年次)」という各種のゼミナールを用意し、その時々に適した学びの場を提供しています。導入ゼミと前期ゼミにおいて、学生は社会科学的な考え方に関する基礎的な力を身につけています。その後、3年次を迎えるにあたって学生は自らの関心に沿って専門領域を選び、望ましい後期ゼミを受講します。ここでは、専門領域について集中的に取り組み、学びを深めています。4年次には、後期ゼミの担当教員によるきめ細かい指導を受けながら、卒業論文の執筆へと進んでいきます。



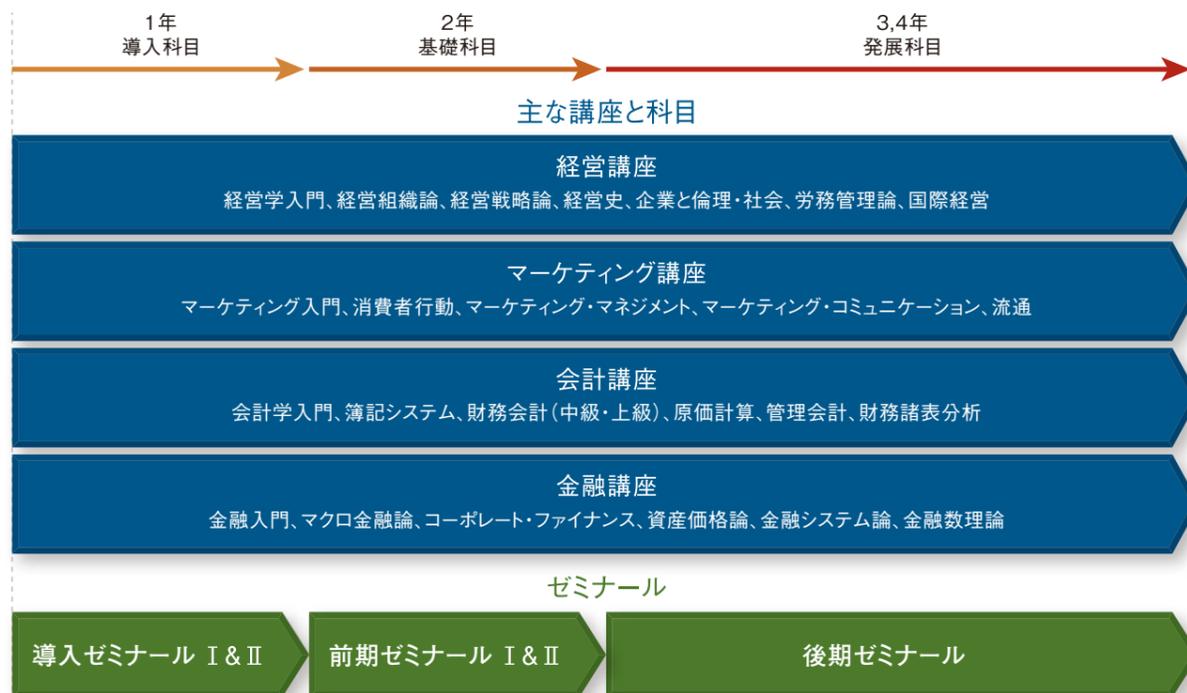
後期ゼミでは、指導教員やゼミの仲間と特に濃密な時間を共有します。そのため、卒業後も活発な交流が続いています。こうした人的ネットワークも、学生にとってかけがえのない財産になっています。

■ 卒業論文



さらなる学びの場

学部卒業後、より高い専門性を獲得したい学生には、大学院経営管理研究科の「MBAプログラム」と「研究者養成コース」が用意されています。MBAプログラムでは、多くの社会人経験者とともに、より高度な実践志向の教育を受けることができます。研究者養成コースでは、日本のみならず世界的にも中核的な研究者を輩出してきた伝統を引き継ぎ、高度な学術的教育・研究活動が行われています。なお、MBAプログラムと研究者養成コースの双方において、学部入学から修士修了までの期間が1年短縮される5年一貫コースが商学部の成績優秀者に対して用意されています。





HITOTSUBASHI UNIVERSITY

SHIBUSAWA SCHOLAR PROGRAM



渋沢スカラープログラム

商学部には、ビジネスを通じて世界の発展に貢献するリーダーを育成するための教育プログラムがあります。日本の資本主義の父と言われ、草創期の一橋大学を支えた渋沢栄一をロールモデルとするこのプログラムを、私たちは渋沢スカラープログラム (SSP) と名付けました。渋沢は、ビジネスが万人にとってより良い社会を作り出す手立てとなることを100年以上前に見抜いていた世界的にも傑出したリーダーでした。

SSPでは、1年次終了時点における応募に基づいて、約15名の商学部生を選抜します。選抜された学生は、2年次から経営に関する各種の英語講義を受講し始めます。これらの英語講義には海外からの交換留学生も参加するため、専門知識のみならず、広範かつ深い国際的素養を身につけることができます。その上で、3年次以降に約1年間にわたって海外の大学へ留学します。



SSP生向けカリキュラム (2020年度)



INTERNATIONAL NETWORKS



国際的なネットワーク

一橋大学は、海外における数多くの大学と学生交流協定を締結しており、これらの提携大学との間で交換留学が相互に行われています。一橋大学には、世界トップクラスの大学への留学に関する様々な制度や、そのための奨学金制度があります。多くの学生がこれらの制度を活用し、早くから海外で勉強する機会を得ています。その一方で、商学部にも世界各国から数多くの留学生が訪れ、学んでいます。異なる文化的背景をもち、勉強意欲も高い学生たちと共に学び、交流する機会に恵まれている学部だと言えます。これら世界各国の大学との間では、学生同士の交流のみならず、教員同士の研究交流なども活発に行われています。